

# 厳しさ共有、ツケ回さない

## 名古屋三条市議激励の集い、250人



名古屋市長



土屋代議士

二十日告示、二十七日投票の三条市議会議員選挙で二期目を目指す、名古屋三条市議の「激励の集い」がきのう十二日午前十時三十分から開かれ、会場は三条東公民館には、名古屋市長が秘書を務めた土屋正忠代議士(東京十八区)や、金子恵美代議士、塚田一郎参議院議員、國定勇人

市長、佐藤卓之県議、坂田光子県議をはじめ、支持者約二百五十人(主催者発表)が詰めかけた。

名古屋市長は十万人を切るうかという人口減と少子高齢化、一十億円を超える市借金などの課題を紹介しながら「子どもたち孫たちにツケを回さない、言い古された陳腐な言葉に聞こえるかもしれないが、あえて言いたい、」

「目の前にある厳しい状況をまずは市民の皆さんと共有させていたただいて、市民お一人おひとりと何をしなければいけないのか、どう第一歩を踏み出すのか」と投げかけ、地域や世代にとらわれず市民一人ひとりの声を聞き、問題解決に向けて市政や国政、県政とのパイプ役となると述べた。

「ふるさと三条を十年後も、三十年後も持続可能なまちにしていく」という目

1面より

標は國定市長と同じとして、「三条市政に山積する課題に、國定市長とともに取り組まなければならない」という強い覚悟をもっている。ふるさと三条に賭す覚悟をもってこの戦いに臨みたい」と決意表明した。

来賓では、**國定市長**、**金子代議士**、**塚田参議院議員**、**土屋代議士**が名古屋市長を激励した。

國定市長は大阪都構想を争点に出直し市長選挙を行った橋下徹大阪市長を例に「地方自治の本質と限界を見せられた。あの橋下さんでさえ、あの反対があつたがゆえに選挙をした。首長と議会がセツトになって進んでい



新必勝

かなければ、市政は前に進まない。議会活動というのには私を批判すると一見、ものすごくカッコよく、仕事をしているように見える。基本的な考えを同じくしながら、よりいいものを考えたい」という議員の皆さんは、さほど華々しさが見

る。市長与党としては非常にやりにくい立場かもしれないが、志を同じくする方が議会に居続けていることが、私たちが三条市民のよりよい幸せをつなぐことになる」と名古屋市長の再選に協力を求めた。

この日は、安倍晋三首相主催の親睦会が新宿御苑で開かれており、国会議員からはそちらの予定をおしりの出席。

金子代議士は国政で議論され、決定した政策や制度を地域にあつたかたちにしていく役目期待し、「三条の未来にタネをまこう。その先頭になる名古屋市長に、未来へのタネをまく機会を与えていただきたい」と、塚田参議院議員は「市議会



選挙。名古屋さんに力を貸していただきたい。前回三千票でトップ当選というので油断は大敵。油断をした瞬間、二期目の選挙は厳しくなる」とそれぞれ述べた。

武蔵野市議を二期、武蔵野市長を六期務めて地方自治にも精通する土屋代議士は「市民と対話し、公的情報、政治、政策の情報を提供した上で、その結果を公の立場で反映するのが政治家の仕事。政策を決める、政治をやる、やるのは人間でありますから、選挙はその人間が信用できるかどうか」とあいさつ。新



人として立候補し、得票数三千三百四票のトップ当選となつた四年前以上の得票は、前回トップに甘んじず危機感を持って運動してほしいと呼び掛け、名古屋豊応援クラブの大竹啓五代代表の音頭でカンパローコールを行って閉会した。(外山)